

2020年12月20日 主日礼拝

司式：金刺長老
奏楽：須田

*讃美歌は声を出さないで1節を目で追いましょう。

《神のみ前に近づく》

讃美歌 242-1~4節 (主を待ち望むアドヴェント)

序詞 (ヴォタム)

わたしたちの助けは、天と地を造られた神からきます。
アーメン。

あいさつ

主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりが、あなたがたとともにありますように。

そして、また、あなたとともにありますように。
アーメン。

讃美歌 268-1節 (朝日は昇りて)

罪の告白 (声を張り上げないで共に祈ります)

父なる神さま、イエス様を私たちに与えてくださったことを何よりのあなたからの贈り物と思い深く感謝します。私たちのこの群れだけでなく、この世界の隅々(すみずみ)までに主の御降誕の知らせが届き、喜びが満ち溢(あふ)れますように。

主よ、このコロナ禍にある世界を憐れんでください。このような状況でも自分たちの利益を追い求めてしまう人間の罪と愚かさを赦してください。クリスマスとこの状況にある時、世界全体の平和の大切さを新たに学び直すことができますように。

「地の果てのすべての人々よ

わたしを仰いで、救いを得よ。

わたしは神、ほかにはいない。

わたしは自分にかけて誓う。

わたしの口から恵みの言葉が出されたならば

その言葉は決して取り消されない。」

(イザヤ書 45:22~23)

*しばらく黙祷の時をもちます

主よ、私たちの心と体を生き返らせ、喜びで満たしてください。御名によって祈ります。アーメン。

本日の集会 礼拝前：・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後：・日曜学校教師会

・オリブの葉編集委員会

讃美歌 32-1節 (キリエ)

赦しの確認と保証 (司式者のみ)

主の赦しと慰めの言葉をお聞きください。

*司式者がローマ書5章6~9節を朗読します。

アーメン。

《神のみ言葉の宣教》

聖書

ゼカリヤ書 8章 4~13節 (旧p1487~1488)

これは神の言葉です。

神に感謝します。

ルカによる福音書 2章 8~14節 (新p103)

これはキリストの福音です

主なるキリストを賛美します。

み言葉を求める祈り (司式者)

讃美歌 271-1節 (喜びはむねに)

説教

『クリスマス礼拝 — 天と地の平和のため』
祝福の祈り 武田真治牧師

《神への応答》

讃美歌 256-1節 (まぶねのかたえに)

入会式 岩井

讃美歌 61-1節 (われらは信ず)

献金 奉仕者：小草郁 小草久

とりなしの祈り (司式者)

主の祈り 93-5 =ともに祈りましょう

報告

讃美歌 29 (天のみ民も)

祝祷 武田真治牧師

後奏 J.S.バッハ：高さ天より私は来た

報告と退場

受付：鈴木 橋本 礼拝：茨木長老

お茶の会 当分の間休会です。

＜先週の説教から＞

『黙示録④— けだものと戦うこと』

ダニエル書 7：23~28 ヨハネの黙示録 13：1~10

黙示録 12 章からは、ヨハネが神様から与えられたいくつかの幻が並べられています。13 章1節は「わたしはまた、一匹の獣が海の中から上って来るのを見た。」とあり、また新たな幻が語られます。

この獣は「十本の角と七つの頭」を持っており、「竜 (=地に投げ落とされたサタン) はこの獣に、自分の力と王座と大きな権威を与えた」のでした。この獣については、昔からローマ帝国のことを指すとか、皇帝ネロのことを言っている等と言われてきました。しかし、それであると、過去の出来事について書かれていることになり、現在の私たちには関係のないこととなります。しかし、これは私たちすべての者の最後の時についての預言であるはずで、そうであるならこの「獣」とは何でしょう？

実はこの獣に似ている存在があります。それはイエス様その方です。黙示録ではイエス様のことを「七つの角と七つの目があり」、「(神の) 力、威力、栄光を受ける」方だとあります。まさにこの獣はイエス様のマネをして人々を惑わす存在なのです。

この獣は一度「死んだと思われたが、治ってしまった。そこで、全地は驚いてこの獣に服従し」「この獣を拝んだ」とあるのは、まさにイエス様の十字架と復活をマネして人々を引き付けている証拠です。その結果「竜が権威をこの獣に与えたので、人々は竜を拝んだ」のでした。サタンが自分を拝ませるための手段だということが分かります。イエス様が「(世の終わりには) 人に惑わされないように気を付けなさい。私の名を名乗る者が現れ『私がメシアだ』と言って、多くの人を惑わすだろう」(マタイ 24; 4) と言われた言葉の通りではないでしょうか！